

発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

「絹本著色阿弥陀聖衆来迎図」重要文化財指定へ

平成 25 年 2 月 27 日（水曜）に開催された国の文化審議会において文部科学大臣に答申がなされ、常光院（上中条 1160）が所有し、埼玉県立歴史と民俗の博物館にて寄託保管されている県指定文化財「絹本著色阿弥陀聖衆来迎図」（旧名称：絹本著色阿弥陀变相図）が、国指定の重要文化財（国指定有形文化財）に指定されることになりました。

「絹本著色阿弥陀聖衆来迎図」は、浄土図と来迎図を組み合わせた特殊な構成を示す作品であり、両面上部から浄土図を描き、正面向きの阿弥陀如来と聖衆の来迎を表し、最下段には宝地帯が描かれ、その左右に中条常光夫妻と伝えられる男女の姿が描かれています。鎌倉時代後期の特殊な形式の浄土教絵画として貴重であると評価されました。

県内の絵画としての重要文化財指定は 9 件目ですが、浄土教絵画としては初の指定となります。また、本市としては 6 件目の指定となり、絵画としては初の栄誉です。

なお、4 月から 5 月に掛けて東京国立博物館で開催された特集展示「平成 25 年 新指定国宝・重要文化財」において一般公開されました。



重文「平山家住宅」を活用して楽しむ会 発足記念イベント



熊谷歌舞伎の会「白波五人男」

国指定重要文化財「平山家住宅」の更なる公開活用を目指して、重文「平山家住宅」を活用して楽しむ会が発足されました。発足を記念して平山家住宅においてイベントが開催されました。熊谷市消防音楽隊の演奏、熊谷歌舞伎の会による「白波五人男」の上演、ランチタイムコンサートなどがあり、新島学園理事長・大平良治氏による「新島譲・八重夫妻の生き方に学ぶ」をテーマにした基調講演がありました。約 300 名の来場者が平山家住宅の名建築を眺めながら、それぞれのイベントを楽しんでいました。

荻野吟子没後 100 年記念事業パネル展

本年は荻野吟子没後 100 年となります。記念事業として次のとおり巡回パネル展を開催しますのでお知らせします。荻野吟子の生涯について解説したパネルや、北海道せたな町から借用した吟子晩年の写真 2 点などを展示しますので、ぜひご覧ください。

平成 25 年 5 月 22 日（水）～30 日（木）：熊谷市役所 1 階南側ロビー
平成 25 年 6 月 3 日（月）～7 日（金）：妻沼行政センター 1 階ロビー
平成 25 年 6 月 10 日（月）～14 日（金）：大里コミュニティセンター
平成 25 年 6 月 17 日（月）～21 日（金）：江南行政センター 1 階ロビー

* 時間：9 時～17 時：各最終日は 15 時まで



市内遺跡発掘情報

箱田氏館跡「弥生時代の集落とお墓を確認」

2月～3月まで行った上之地区の発掘調査では、複数の時代の遺構・遺物を検出しましたが、特に弥生時代で成果があがっています。中期後半（約2000年前）ごろの住居跡2軒と、後期（約1900年前）と推測される方形周溝墓2基を確認しました。住居跡からは、土製勾玉や土製小玉などの珍しい装身具や土器棺壘を検出しています。方形周溝墓とは溝を四方に配置される遺構ですが、隅切れの形状でした。調査区東側には用水路があり、その地下は、平安時代以前は谷状に落ち込んでいたことが確認されました。



遺跡全景（手前が西）



土器棺壘

○平成24年度刊行の埋蔵文化財調査報告書について

平成24年度に刊行した埋蔵文化財調査報告書は、以下の3冊です。これらの報告書は、江南文化財センター及び市立図書館で閲覧できます。またホームページ「熊谷デジタルミュージアム」でも公開（PDF版）していますので、興味のある方はぜひご覧ください。

報告書名	所在地	時代
『前中西遺跡 西別府館跡 王子西遺跡 立野遺跡』	中西4丁目／西別府／弥藤吾／板井	弥生、古墳／平安、江戸／縄文、平安／古墳
『西別府祭祀遺跡、西別府廃寺、西別府遺跡 統括報告書Ⅰ』	西別府	古墳、奈良、平安、中世
『前中西遺跡Ⅳ』	上之	弥生、古墳、平安、近世

○平成24年度埋蔵文化財発掘の届出・照会文書の件数等について

平成24年度の各種開発等に伴う届出・照会文書の件数は、文化財保護法第93条に基づく発掘の届出が203件、照会文書が122件の計325件でした。前年度比約11%の増加となり、過去最高の件数となりました。これらの届出・照会文書に対する試掘調査実施件数は44件であり、措置としては本発掘調査7件、工事立会153件、慎重工事164件、注意1件でした。なお、埋蔵文化財包蔵地の窓口照会件数は548件でした。今後とも届出・照会文書の提出をはじめ、埋蔵文化財保護のご協力をお願いいたします。（右写真：発掘調査の様子）



連載 くまがやの古墳群

⑥ 籠原裏古墳群「八角形の墳丘をもつ特異な古墳群」

籠原裏古墳群は、JR籠原駅の北東部、新堀地区の掘挽台地東端部に所在する古墳時代後期から終末期にかけての古墳群で、現在11基が確認され八角形墳が3基、円墳8基で構成されます。古墳は、そのほとんどが区画整理事業に伴う発掘調査で見え、その全てが削平を受けたり、消滅してしまっています。

調査された古墳のうち籠原裏古墳群第1号墳は、平面形が八角形を呈する古墳で、その直径は約1.2mの規模です。遺体を葬った施設である横穴式石室からは銅製双脚足金具、鉄製鞆尻金具等の刀の鞘を飾った金具が出土しています。また、円筒埴輪等の通輪は確認されていないことから、7世紀後半ないしは末～8世紀初頭の築造と考えられます。

八角形の墳形は、主に天皇家の墓に採用された特殊な墳形で、石室から出土した刀装具からも、この古墳の特異性が分かります。また、築造の時期は、当時この古墳の近隣にあった幡羅郡家（郡役所）の成立時期と同じで、これに隣接する西別府祭祀遺跡では水源に対する祭祀が行われ、さらに8世紀初頭には西別府廃寺が創建されるという歴史的背景があり、この古墳に葬られた人物がこれらの遺跡群と密接な関係にあると考えられ注目されます。（写真：籠原裏古墳群第1号墳、中央が石室）



文化財センター通信

企画展 西別府安楽寺所蔵「古瓦」展開催中！

現在、9月までの会期中、市立熊谷図書館3階郷土資料展示室において、西別府安楽寺所蔵の市指定文化財「古瓦」を中心にしたミニ展示会を開催中です。この「古瓦」は、当時西別府にあった林で地元の人々により採取されたもので、古代寺院の存在を証明する貴重な資料であるとして、昭和30年11月に12点が指定されました。この瓦が採取された場所は、西別府廃寺という8世紀初頭の寺院が存在した場所で、後の発掘調査により、その寺院の実態の一部が明らかとなりました。

このたび展示した「古瓦」は、安楽寺の本堂建替え工事に伴い、一時的に江南文化財センターに寄託されたもので、軒丸瓦、軒平瓦などの瓦やミニチュアの塔である瓦塔など指定物件を含めて28点あります。また、調査により出土した瓦や瓦塔も併せて展示しましたので、この機会に是非御覧ください。



「熊谷市文化財マップ」と「伝統芸能の世界」を発行しました

「熊谷市文化財マップ（熊谷市の文化財）」：左

市内にある文化財の中から主に見学可能なもの134件を選び、その所在地の地図と簡単な説明を付けた文化財マップを作成しました。昨年、国宝に指定された歓喜院聖天堂や市民協働事業により遊歩道が整備された甲山古墳についても掲載しています。表紙には3種類の「埼玉県伝統的工芸品「熊谷染」小紋」をあしらいました。マップ片手に町を歩くと地域の文化財の再発見があるかもしれません。

「伝統芸能の世界」：右

市内の無形民俗文化財の解説及び平成20年度から開催している地域伝統芸能今昔物語について紹介したリーフレットを作成しました。時代を超えて受け継がれている伝統芸能について興味を持っていただけたら幸いです。

熊谷市の文化財



○「熊谷市文化財マップ（熊谷市の文化財）」ならびに「伝統芸能の世界」は、江南文化財センター、熊谷市役所本庁舎社会教育課、各行政センター、市立図書館、公民館等で配付しています。

文化財探訪

養蚕関連の文化財

一世界文化遺産を目指す「富岡製糸場と絹産業遺産群」との関わり一

現在、群馬県にある「富岡製糸場と絹産業遺産群」は世界遺産登録に向けて注目を集めています。これらの遺産群と熊谷は深いつながりがあります。それは天保2年（1831）、旧玉井村で生まれ、日本を代表する養蚕技術の先駆者となった^{すゐいけんあ}鯨井勘衛（下写真）に関係しています。勘衛は、玉井に「元素楼」という大蚕場を作り、清涼飼育という画期的な養蚕技術を多くの人々に伝習したことで知られています。勘衛によって成し得た養蚕技術の向上が、関東地域での繭生産の増大をもたらし、富岡製糸場への供給を確固として支えたとされています。

その後、「元素楼」は移築解体され、その跡地が「元素楼跡」として市指定史跡に指定されています（右上写真）。また勘衛によって著された「元素楼養蚕関係文書一括」も市指定有形文化財に指定されています。

これら熊谷における養蚕関連の文化財が、世界遺産に向けた一連の動きに対しての一助となっていることは、大変意義深いことであると思われます。



文化財コラム 古代との遭遇・第12話『水辺での祭りごと

いっほんぎまゐいせき
一本木前遺跡


川の際、決められた場所で馬の骨を用いて行われる祭祀には、どのような意味があったのでしょうか。

平成10年、東別府の一本木前遺跡の河川の入江西岸最奥部に東西4m、南北3.4mの方形の平坦面が造り出され、北東隅に設けられた方形の礎敷きに馬の下顎がのり、周囲に土師器・須恵器を配した祭祀跡が検出されています。土器群は、北東隅の須恵器甕を扇の要として、東辺が須恵器甕、北辺が土師器甕、要の対角（南西部）には須恵器・土師器の坏が併置されていました。坏は、すべて上向きで単独のものと同ねられたものがみられました。坏の間からは、滑石製の模造品も出土しています。出土した土器から7世紀後半の所産と思われる。



一本木前遺跡では、他にも旧河川に沿って馬を伴う祭祀跡が10箇所発見されています。この遺跡における祭祀については、時期も古墳時代中期から始められ、後期特に7世紀代にピークを迎え、8世紀に入ると急速に衰退し、以後みられなくなります。（写真：一本木前遺跡出土状況）

◇ 国宝を見に行こう！ 妻沼聖天山本殿「歓喜院聖天堂」のご案内

歓喜院聖天堂	場所・問合せ	交通アクセス	拝観料	公開日時
	住所： 熊谷市妻沼 1627 電話： 048-588-1644 (寺務所)	バス利用の場合： JR熊谷駅：朝日バス(6番乗り場) ～太田駅行・妻沼聖天前行・西小泉駅行～「妻沼聖天前」下車。 ゆうゆうバス(市内循環バス)： グライダー号・ムサシトミヨ号、 「妻沼聖天前」下車。	700円 (小学生以下は無料) ガイド解説付き 境内入場は無料	年中無休 10時から 16時30分 (受付は16時まで)

◇ 東京国立博物館のキャラクター「トーハクくん(別名、東博)」は熊谷市出身です。

平成24年度、東京国立博物館は140周年を迎えました。それを機に、キャラクターが誕生しました。その一つが「トーハクくん」(東博)です。トーハクくんは、熊谷市内に所在する野原古墳群(野原)から出土した「踊る人々」(踊る埴輪)がモチーフとなっており、キャラクターの出身地も熊谷市として明記されています。現在、「踊る人々」は東京国立博物館に所蔵され、常設展示されています。東京国立博物館のミュージアムショップでは、トーハクくんの様々なキャラクターグッズが販売されています。熊谷市出身のトーハクくんにご注目ください。



編集後記

重要文化財指定が決定した「絹本著色阿弥陀聖衆来迎図」が、東京国立博物館にて一般公開されました。会場での来迎図の左右には、法隆寺や善光寺といった著名な寺院が所蔵する仏画が展示され、大変感慨深いものがありました。また、5月には、国立劇場での文楽「熊谷陣屋」の開催に合わせ、同会場にて国宝「歓喜院聖天堂」パネル・ポスター展を開催し、多くの来場者が関心を寄せました。

多くの方々に熊谷の文化財を広くアピールし、その素晴らしさを知ってもらうことを目標に、文化財の保護ならびに公開活用の事業を促進させていきたいと思っております。



発行：平成25年5月20日

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係)

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP：「熊谷デジタルミュージアム」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

文化財の紹介、ブログ「熊谷市文化財日記」、「BUNKAZAI情報」カラー版などを豊富に掲載